

西尾幡豆 NISHIO-HAZU

西尾幡豆地域は、西三河地域の中央部を南北に流れる矢作川以南に広がる沖積層の平坦な地域と東部のなだらかな丘陵地からなり、南は風光明媚な三河湾に面した、合併前の西尾市と幡豆郡の区域をいいます。



髙山の茶園

この地域の歴史は古く、東部丘陵地には古墳群が点在し、また西尾市は松平家6万石の城下町として栄え、今でも街のそこかしこにその面影を残し、三河の小京都と呼ばれています。



三河の小京都

農業は、温暖な気候と矢作川の恵みを受け、四季折々に多種多様な農産物ができ、古くから農業生産の盛んな地域です。

特に、抹茶の原料となるてん茶の生産は全国的にも有名なほか、米・麦・大豆作は、県内を代表する産地として発展を遂げています。

さらに、全国トップクラスの生産を誇るカーネーションなどの花きの生産は、フラワー王国愛知を支える主要な産地となっています。



カーネーションの収穫

また、三河湾では底引き網漁、のり増殖、遠浅の砂底が広がる沿岸域でのあさり養殖等が盛んに行われ、さらに内水面養殖のウナギ養殖は日本一を誇るほか、三河湾でとれた新鮮なエビをたっぷりと使った「えびせんべい」も全国的に知られています。



三河湾ののり養殖